



お知らせ

- # ヴォーリズ六甲山荘一般公開最終日 11 月 18 日 (日)
- # 第 2 プロパティ作業 11 月 4 日 (日)、10 日 (土)、23 日 (金・祝)、25 日 (日)
- # 畑儀文の合唱教室 11 月 12 日 (月)
- # 六甲山荘大掃除 11 月 23 日 (金・祝)
- # 下期セミナー 京都・二条城と杉本家訪問 12 月 1 日 (土)
- # 畑儀文の合唱教室 12 月 17 日 (月)
- # 新年会 (関西) 2019 年 1 月 12 日 (土)

11月3日(土・祝) はほりだし市

すでにご案内していますが、秋の大行事ほりだし市を 11 月 3 日に開きます。ほりだし市の成功には①たくさんの出品 ②大勢のスタッフ ③大勢のお客さま が必要です。間近にせまっていますが、寄贈品や手作りの出品、当日のスタッフ参加をお待ちしています。
またチラシを同封していますので、お知り合いにお声をかけて大勢の来場者がありますよう、ご協力をお願いいたします。

みんなの力で第2 プロパティをそだてましょう！

ヴォーリズ六甲山荘に隣接した第 2 プロパティは 2020 年に一般公開するのを目標に整備作業をはじめました。「文化財と自然・遺跡との共生」をテーマに、六甲の自然を楽しみ、自然のなかに残る人々の生活の跡を味わえるプロパティにするにはどうしたらいいか、開発委員会のメンバーが知恵をだしあって考えています。小さな水の流れを導いて池を復活させる、流れを利用して水辺の植物を植える、古い石垣の埋まっている根本を掘りおこして往時の姿をとりもどす・・・など、アイディアはつぎつぎと湧いてきます。

「できるだけ自分たちの手で」という当協会のモットーにしたがい、作業は会員の手で行っています。年内の作業日は以下のとおりです。ぜひご参加ください。

敷地内にどんな花を植えたらいいか、などアイディアも歓迎です。皆さんのお知恵をおかしてください。

11 月 4 日 (日)、10 日 (土)、23 日 (金・祝)、25 日 (日)



倒木の片付け



道の整備



石垣前の道づくり

下期セミナー

京都・二条城と杉本家住宅を訪ねる

下期のセミナーでは二条城と杉本家を訪問します。世界遺産でもある二条城は建築士坂井清氏による解説をうけながらまわります。重要文化財である杉本家では杉本節子氏 (料理研究家) の講話も伺うという一日です。

月日 12 月 1 日 (土)

訪問先 午前 二条城 坂井清氏 (一級建築士、二条城に 40 年勤務) による解説
午後 杉本家住宅 杉本節子氏 (料理研究家) の講話「京町衆の食文化」

集合 二条城正門前 10 時 20 分

昼食 膳處漢ぽっちり (中華料理) ランチ 1720 円 (膳處漢弁当)

参加費 会員 3000 円 (昼食代、バス移動代は別途自己負担)

申込締切 11 月 25 日 (ただし定員に達しだい締め切ります)



詳しくは同封の案内チラシまたはホームページをごらんください。

第11回タイ交流旅行

アメニティ 2000 協会が支援しているタイ北部の学校を訪ねる旅を今年度も企画しています。

月日 2019年2月14日(木)～18日(月)

オプション ベトナム・ダラット訪問 17日(日)～19日(火)

今回は、支援の当初からつながりがあり、交流旅行参加者の有志が奨学金をだしてきたパンマカド校の奨学生や親たちとの交流パーティーを行う予定です。

旅行費用等の詳細は未定ですが、参加者の募集をいたします。



ヴォーリズ六甲山荘大掃除&暖炉とワインを楽しむ会

六甲山荘の一般公開は今年は11月18日(日)が最終日です。そのあと23日(金・祝)に大掃除をして、建物にも人間にも「ご苦労様でした」の打ち上げをします。暖炉に火をいれ、ワインをあけて、みんなで楽しみましょう！今回も三井住友信託銀行から若いボランティアが参加してくれます。無尽蔵の落葉を掃き、敷地の整備をしていると、体がほかほかしてきます。秋の山上の作業にぜひご参加ください。

日時 11月23日(金・祝) 午前10時から

(現在阪急バスは運休です。ケーブルでお上がりください。)

持ち物 汚れてもいい服装、軍手など

昼食の準備の都合がありますので、ご参加の方は21日までにご連絡ください。



ご報告 上期セミナー 9月8日(土) 草志舎

昨年についてヴォーリズの事務所についての話でしたが、今回はとくにヴォーリズと佐藤久勝さんとのつながりを中心に語っていただきました。ヴォーリズ事務所の闊達な雰囲気が出た内容でした。



ご報告 畑儀文の合唱教室 9月10日(月) 10月15日(月) 11月12日(月) 草志舎

この教室ではときどき輪唱を歌いますが、そばで聞いていてもとても楽しいです。もともときれいなメロディーが、重なって歌われると思いがけないハーモニーになって、躍動感のある歌になります。一部を小さな声でくちずさんでそっとハーモニーに加わるのもひそかな楽しみです。

ご報告 コウノトリの郷との交流 9月15日(土) 豊岡

久しぶりの稲刈りでした。ほとんどの稲は黄金色に実っていましたが、今年の豊岡の夏は異常に暑く、雨がまったく降らず、蝶やハチという昆虫が極端に少なかったそうです。そのため野菜の成りがとても悪いとのこと。自然の恵みあつての農業だとあらためて実感しました。



ご報告 秋季ナショナル・トラスト展 9月15日～17日、22日～24日 ヴォーリズ六甲山荘

春季(春の連休)に展示したパネルと、パソコンでのスライドショーはバージョンアップした内容で開催しました。期間中の来場者は98名でした。スライドショーは英国のナショナル・トラスト、日本のナショナル・トラスト運動、六甲山荘について、わかりやすい内容で、今も来場者にみてもらえるよう続けています。



ご報告 草木染教室 10月13日(土) ヴォーリズ六甲山荘

今年の染め材料はビワの葉とタデアイでした。アイはきれいに染まりましたが、枇杷の葉は試しどおりにいかなかったとか。草木染は奥が深いと実感しました。

ご報告 建物の保存を考える in Tokyo 10月6日(土) 三溪園(横浜市)
緑ゆたかな広大な敷地に、それぞれ由緒ある建築がうまく配置され、ガイドに丁寧な案内を受けて充実した半日でした。とくに当初から市民への公開を前提としていたという三溪の姿勢が印象的でした。



＜参加記＞「三溪園の建築を訪ねる」に参加して 幸田清一郎
台風25号の進路が北へシフトして好天に恵まれた10月6日(土)の午後、「三溪園の建築を訪ねる」が12名の参加者を得て行われた。三溪園は、横浜市本牧地区の閑静な住宅街の奥地にある175,000㎡の広がりを持つ庭園である。アクセスは横浜や根岸、あるいは元町・中華街からの市バスによるが、やや遠隔の地という感がある。

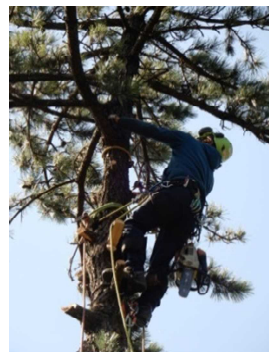
実業家原三溪は1902年(明治35年)、この地に住宅(現在の鶴翔閣)を建て、その後、京都や鎌倉などから多数の重要な建築物を移築して庭園に配置した。空襲により大きな被害があったが、1953年(昭和28年)に市も出資して三溪園保勝会(現在公益財団法人)が設立され、原家から庭園の大部分を譲り受けて復旧工事に着手、さらに外部からの一部の建築物の移築を含めて現在に至っている。庭園の公開は三溪自身によって1906年(明治39年)の早期に開始されている。

今回は、内苑を巡り建築物を外部から見学するものであった。博識で話好きのガイドさんの案内で、われわれは鶴翔閣、御門、白雲邸、臨春閣、月華殿、天授院と歩を進めて少しずつ苑奥へ、高みへと登り、その後山道を下りつつ聴秋閣、旧天瑞寺寿塔覆堂などを見学して1時間半ほどのツアーを終えた。それぞれの歴史的建築物は江戸時代初期の書院造風のものが多く、これらに地藏堂や、三溪の建てた幾つかの建築物が配置されている。筆者は特に臨春閣欄間の自然と一体化した波の彫刻、また本物の楽器があしらわれた遊び心を感じる欄間に興味を引かれた。臨春閣は徳川吉宗が幼少期に育った紀州徳川家の御殿と考えられているとのことで、建築物に刻まれた歴史を垣間見ることができた。一方、外苑側から一連の建築物群を見ると、それぞれの出自に起因する色合いが、相互に違和感なくなじんでいる。長い年月に亘る環境や人手が、建築物全体を通じた一体感を作り出していることが感じられた。



今回、外苑の建築物を順次見学する時間はなかったが、外苑の高地に位置する旧東明寺三重塔は園内いたるところから遠望できる三溪園のシンボルである。また会の解散後に訪ねた旧矢筈原家住宅は、1960年(昭和35年)に岐阜県白川郷から移築されたもので、合掌造茅葺屋根の堂々とした外観を持ち、またその内部はボランティアさんらによって黒光りするほど磨き上げられていた。加藤祐三・三溪園園長のブログによると、園全体では200名を超えるボランティアの方々が、ガイド、合掌造、庭園に分かれて、職員を助けて日々三溪園の魅力の増進に向けて活動されているとのことである。

われわれは内苑の見学後に三溪記念館に移動して抹茶を楽しみ、原三溪の自筆やゆかりの作家作品などに接した。その後わずかな時間であったが、大池の中にある四阿の涵花亭で本日の感想などを述べあった。幹事提案によって、多くの拍手を得た発言者2人には記念品が渡され、ここで4時過ぎに散会となった。



ご報告 ヴォーリズ六甲山荘高木伐採 10月26日、27日

7月の台風で折れた松と、万一折れた場合に建物に被害をおよぼす恐れのある高木を伐採することにしました。アプローチがほそく、崖地で重機が使えないので、人力のみによる作業です。もちろんプロに依頼しました。身軽に樹上に上って、不安定な足場でチェーンソーを使い、高い木を上から少しずつ切り落としていくという軽業師のような人たちです。こういう仕事をする人を「空師」とか「山師」というそうですが、空師とはほんとに言い得て妙ですね。

・・・・・・・・・・・・・・・・

＜シンポジウム(8月20日～22日)の参加記＞

8月のシンポジウムに参加してくれた千葉大学の学生さんから参加記が届きました。あの楽しかった3日間を思い出しながら掲載いたします。



アメニティ2000協会シンポジウムに参加して

金子 翼(千葉大学4年 額原研究室)

8月20日～22日の二泊三日で、ヴォーリズの六甲山荘で行われたアメニティ2000のシンポジウムに参加させていただきました。所属する研究室の教授や先輩方のお

誘いを受け、軽い気持ちで参加を決意しましたが、振り返ってみると、とても貴重な経験をさせていただいた3日間でした。

初日のセミナーは、ナショナルトラストによる自然保護の話と信託制度の活用の話でした。建築の保全やナショナルトラスト活動についてのシンポジウムであると同っていたので、予想とは違う分野の専門的な話に大変驚きました。二日目は、建築の保存活動の現状などについての講演で、世界遺産として文化財を保護している長崎県の五島と、色々な方法で建築物を保存・活用しているイギリスの事例を教えてくださいました。セミナーの他にも参加されている方々とお話をする機会もあり、普段の大学生活では聞かないような様々な意見やお話を聞かせて頂きました。3日間を通して、建物を一つ保存するだけでも、様々な専門的な知識と一緒に活動に参加してくれる人々が必要であるということを実感しました。

また、シンポジウムの会場となり宿泊もさせていただいたヴォーリズ六甲山荘は、とても素敵な建築でした。ヴォーリズによって設計された建物の一つ一つの工夫を目の当たりにする度に、住み手に対する配慮を感じました。本当に居心地が良かったです。

最後になりましたが、シンポジウムだけでなく、おいしい食事や山地開拓のワークなど、とても良い体験でした。このような機会を提供してくださったアメニティ 2000 の皆様、本当にありがとうございました。

唯一無二の学びと経験の機会をいただいて

月嶋 教佑（千葉大学大学院頼原研究室）

「自然はすぐに経済に壊される。」これはとある参加者の方がおっしゃった言葉ですが、非常に私の耳に残っています。まだまだ知識も経験も浅い私はこのシンポジウムに参加させて頂くまで、恥ずかしながら租税制度というのが建築（や自然など）の保全に非常に大きな影響を与えるなど、考えたこともありませんでした。しかし、室谷先生、武田先生のお二方のご講演を聴き、この言葉が如何に重く、保全・保存にとっての大きな障壁となりうるのか、ということを学びました。

また、各日、夕食の時間には多方面からの参加者の方々より、本当に様々なお話を頂戴することができました。特にご講演も頂きました高橋先生には、ご講演の内容に限らず連日本当に様々なお話をして頂き、また可愛がって頂きました。ありがとうございました。

ところで、私の高校時代は、スマートフォン流行のタイミングであり、新しいアプリ開発をする研究をする機会がありました。それは、その後進学してきた建築の分野とはかけ離れており、この二つが繋がることなどこれまで想像もしていませんでしたが、澤田先生よりEnglish Heritage によるBlue Plaque というアプリの存在を教えてください、思わぬ分野の繋がりに驚き、改めて何が繋がるかわからない、と感じた次第でありました。

最後になってしまいましたが、この会を主催し、あらゆる場面でサポートしてくださったアメニティ2000 協会の皆様、誠にありがとうございました。登録文化財のヴォーリズ山荘と六甲山の美味しい空気の中で、これほどに密度の濃い三日間を過ごせたことは、私の中で本当にかけがえのない経験となりました。また必ずお邪魔させて頂きますので、その節はどうかよろしくお願い致します！



アメニティ 2000 シンポジウム感想

中村 文香（千葉大学大学院モリス研究室）

去年に引き続き、今年もシンポジウムに参加させていただきました。去年の六甲山荘では本当に楽しく刺激的なシンポジウムだったので、今年も行きたい！と思い今年の春頃からシンポジウムがいつあるのか頼原研究室の同期にしつこく聞いていました。（笑）

2回目の六甲でしたが、美しい自然と素敵な六甲山荘は何度来ても飽きない美しさを持っているなと感じました。歴史的な建造物は“保存すること”に重きを置かれすぎて大切に汚れないよう壊れないように過度に守られがちですが、ここに来るとその土地で使いながら守ることがいかに素晴らしいことを改めて考えさせられました。極端に言うと汚れたらふけばよいし、壊れたらなおせば良いのだと感じさせてくれる良い機会でした。

また、去年は台風の影響でワークができなかったのはじめてのワークが楽しみにしていたことの一つでした。もともと体を動かすことが好きで、山の中での軽作業は心地良く、山の中の冷風が体を冷ましてくれたので疲れたというより心身共に癒されたという感じでした。また、その後のお昼は格段においしかったです。

私は今回、修士論文である古民家である祖父母の家の調査の概要についてお話ししました。研究室外で話をするのは初めてで上手く伝わるか不安な所もありましたが、多くの方から調査を頑張ってくださいとの励ましの言葉と、守っていくために具体的にどうすれば良いか実際に第一線で働いている方からのアドバイスもいただき、自身の研究に自信を持てるようになりました。

なかなか普段の生活では味わえない経験と知り合えないような方々とお話は刺激的で大変勉強になりました。また、お食



事は毎回素晴らしいもので帰ってからも写真で見返しては幸せな気分になっています。このような機会をいただき本当にありがとうございました。

六甲山荘たより

8月、9月の六甲山荘

今年の夏は暑かったですね。けれど六甲山荘は下界の猛暑にくらべて気温は低く、スタッフが「今日は暑いね」と感じる時でも30度を超えることはありません。夏別荘の面目躍如です。それでも喫茶ではアイスコーヒーやミカンゼリーという夏バージョンのメニューをとりいれ、好評でした。8月のシンポジウムも充実した内容で、山荘は参加者とスタッフの熱意に包まれていました。ただこの夏は週末に天気がくずれることが多く、とくに7月は台風と大雨のために3日も休館することになったのが残念です。

黒田睦子さん 峯山富美賞受賞

黒田睦子さんが11月の全国町並み保存連盟第41回「長野松代・善光寺大会」で、「峯山富美賞」を受賞されます。奈良町の再生など、町並みと暮らしが共存する町をめざす活動が評価されての受賞です。おめでとうございます。

*峯山富美賞：小樽運河の保全再生に力を尽した峯山富美の名前で創設された賞。地域の文化と歴史的集落・町並みなどの保存・再生・活用運動を通じて地域の活性化に寄与することに貢献した方に贈られる。

正司泰一郎さん 出版

「世界に誇れる美しいまちへ
～宝塚のまちづくり12年間の挑戦～」

正司泰一郎さん（当協会理事）が平成3年からの12年間に市長として宝塚の街づくりにとりくまれた軌跡と、その活動を支えたまちへの想いをつづられた本です。9月1日には出版を祝う会が盛大にひらかれました。

正司さんは市長退任後現在は「雲雀丘100年浪漫委員会」委員長として雲雀丘花屋敷の町並み保存の活動をしてられます。

新年会のご案内

2019年の新年会を次のように開きます。にぎやかにおしゃべりしながら新年の抱負をかたりあいませんか。ご参加お待ちしております。

*関西 1月12日（土） 12時～ 場所：草志舎
参加費：1500円

準備の都合上ご参加の方は1月10日までにご連絡ください。
詳しくは同封の案内チラシまたはホームページをごらんください。



募金のご報告～8月9月

8月、9月に次の方々から募金をいただきました。

ありがとうございました。（敬称略）

<六甲山荘屋根葺替え資金>

《8月9月合計 114,000円 2018年度累計 417,070円》

<一般資金>

《8月9月合計 37,500円 2018年度累計 255,600円》

*文化遺産継承基金

《8月9月合計 151,500円 2018年度累計 672,670円》

ご寄付いただきました

八田修次さんからパソコンをご寄付いただきました。事務作業で使わせていただきます。ありがとうございました。